〒398-0002　長野県大町市大町 8056-1
TEL. 0261-22-0211 FAX. 0261-21-2133
✉ E-mail:sanpaku@city.omachi.nagano.jp
URL:http://www.omachi-sanpaku.com
市立大町山岳博物館公式 Web サイトは、大町山岳博物館友の会の支援により博物館が運用しています。

OMACHI ALPINE MUSEUM
市立 大町山岳博物館

山と博物館

「山と博物館」は自治会などを通じ全戸配布されるほか、市役所および関連施設で配置配布しています。また博物館公式 Web からもご覧いただけます。

2019
春　号
第 64 巻 1 号

無 料
Free

表紙の1枚 ……1
・15年ぶりのニホンライチョウ公開が始まりました。
さんぱく研究最前線 ……2～3
・葛葉峠物語
子ども博物館 ……4
・わたしだけの“ニュー雪形”をさがしてみよう！
博物館のひろば ……5
・安曇野アートライン展に出展
・博物館常設展スペシャルガイド
・ライチョウ保全のための会議
・大町市老人クラブ連合会で講演
・県下市議会議長会視察研修会
・美術館・博物館の展示照明研修会
山博友の会だより ……6～7
・いっしょに山の探検してみませんか
・山岳博物館友の会の活動アルバム
・大町山岳博物館友の会 会員募集中！
2019年度博物館年間スケジュール ……8
・常設展・企画展・関連イベント
・講座・観察会・展示会など
・おおまち博物館めぐりスタンプラリー

写真：ライチョウ舎のメス個体

15年ぶりのニホンライチョウ公開が始まりました。

ライチョウはストレスに弱い鳥です。急に物が現れたり、大きな音や聞きなれない音がすると警戒し、パニックになることがあります。
展示場でも山の上でも静かにそっと見守ってください。

ライチョウの飼育は平成28年から再開しましたが、繁殖等に万全を期すために非公開で進めてきました。3月1日現在、全国5ヶ所の動物園で29羽（オス18羽、メス11羽）を飼育しています。

各園館とも展示場が広いスペースなので、より多くのライチョウを飼育するために公開展示をしながら事業を進めることとなりました。また、生体のライチョウをご覧いただくことで、多くの方々にライチョウを知っていただき、ライチョウが暮らす高山環境にも思いをはせていただきたいという願いがあります。

◆市立大町山岳博物館は、月曜日と祝日の翌日が休館です。月曜日が祝日の場合は開館し翌日休館となります。
◆開館時間は、午前9時～午後5時（入館は午後4時30分まで）です。
◆家庭の日（毎月第３日曜日）とその前日の土曜日を「**大町市民無料開放デー**」として大町市民の方は観覧料が無料です。この日は長野県民の方にも団体割引料金で観覧いただけます。今季は４月20・21日、5月18・19日、6月15・16日が実施日になります。
◆次の方は年間を通じて博物館観覧料は無料です。《**障がい者手帳をお持ちの方と付添いの方１名／未就学児童／市内の小中学校に通う児童生徒／市内在住の65才以上の方**》
該当しない方にも各種割引料金があります。詳しくは窓口でお尋ねください。

博物館施設案内はこちら

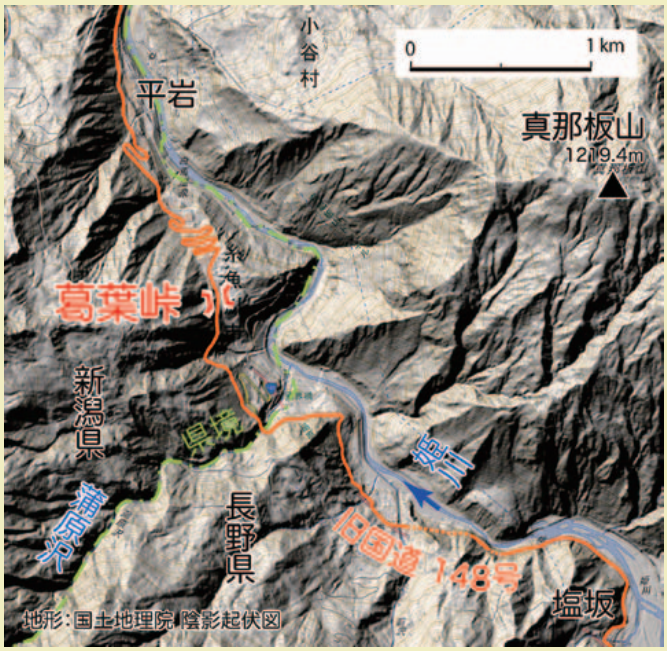
葛葉峠物語

すこし年配のみなさまは、「葛葉峠」の名前になつかしさを感じられるかもしれません。そういえば、最近、糸魚川へ行くのにこの峠を越えなくなりましたね。そのわけをご紹介します。

葛葉峠

大町と糸魚川を結ぶ国道148号の旧道は、この峠の先でつづら折れの転がり落ちそうな急坂になっていました。

道ゆく人々には、地形が大きく変わる葛葉峠が長野と新潟の県境であるかのように思えました。ところが、実際の県境は峠の手前の蒲原沢で、滝のように細い沢であるため、気づかずに通りすぎてしまいます。



峠からのながめ

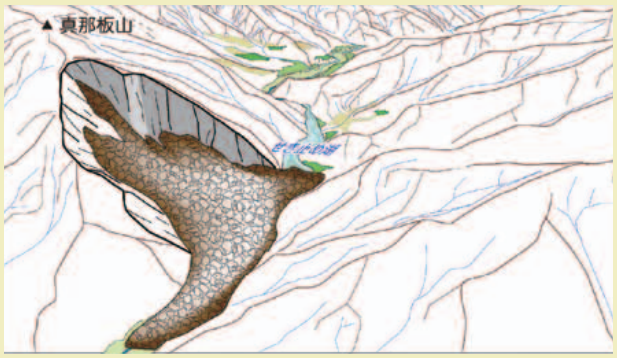
峠にたどりつくと、展望が一気にひらけます。遠くにみえる平らな山の端に明星山が顔をのぞかせ、旅心は越後へと誘われたものです。

葛葉峠と真那板山の山くずれ

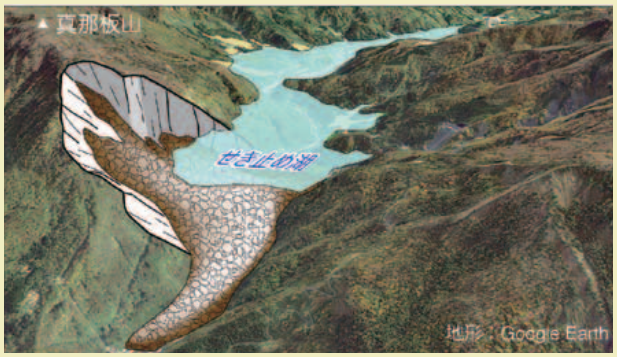
このふしぎな峠は、どのようにしてできたのでしょう？　最近の研究によって、葛葉峠の高まりが山くずれでできたことがわかってきました。

① 山くずれ以前

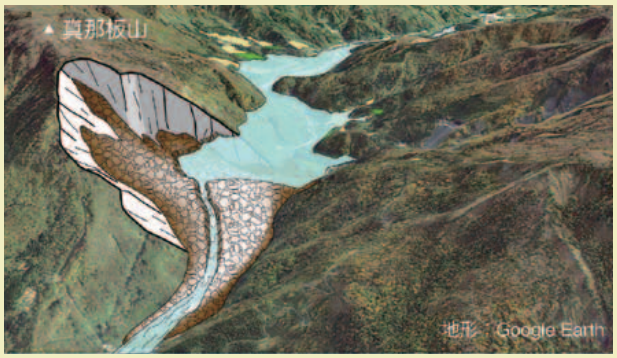
② 山くずれの発生



③ せき止め湖の満水



④ せき止め湖の決壊



⑤ 姫川による侵食

山くずれの原因

真那板山の山くずれは幅1.2km・奥行き1.2m・高さ820mもあり、くずれた土砂が姫川をうめて、せき止め湖ができました。この湖は6.7km上流までひろがり、深さは140mに達しました。

湖底にたまった粘土層からみつかった木片の年代は約500年前です。そのころに発生した大きな地震としては、上越市沖の『越後南西部地震』（1502年、M6.5～7.0）が記録にのこっています。中世の室町時代のことで、広い範囲に強いゆれがあり、長野県内でも真那板山をはじめ、いつかの大きな山くずれが起きたと考えられています。

葛葉峠は「塩の道」

山くずれでできた葛葉峠の高まりに幹線道路がつけられたのは、近世になってからです。

「塩の道」は松本と糸魚川をむすぶ古代～明治期の交易路で、いくつものルートがありました。近世になると、起伏を少なくするために道が姫川に沿ってつくられました。その際、葛葉峠のところは川べりが急な崖だったために、「塩の道」は山越えにならざるをえませんでした。こうしてできたのが葛葉峠で、つづら折れの急坂は室町時代からの自然と人の営みによってできあがったもので、最近まで国道の最大の難所でした。

大所トンネル

1994（平成6）年に葛葉峠の西に大所トンネル（2.3km：国道148号で最長）が開通し、葛葉峠を越えることなく糸魚川へ行けるようになりました。

旧国道の交通量は激減して、今では、峠の南側が通行止めになっています。「葛葉峠」はこうして、中高年の方々の記憶から薄れ、若い人たちに知られる機会もほとんどなくなりました。

「道の博物館」

自然に寄りそってつくられた古道や旧道は今も大切に手入れがされて、生活にも利用されています。「塩の道」と国道148号は、古代-中世-近世-近代-現在にわたって築営されてきた「道の博物館」ともいえる歴史遺産で、道の歴史と未来を学び考えることができます。

葛葉峠へ行くには国道148号を新潟県へ入ったところで平岩駅方面へ別れ、つづら折れの旧国道をのぼります。「峠の茶屋」は閉まっていますが、天気のよい日には明星山が昔とかわらぬ姿をみせてくれます。

［参考文献］ 小疇　尚・石井正樹（1998）長野県北部真那板山の崩壊と姫川の堰止め．駿台史学，105，1-17．井口　隆・八木浩司（2012）越後南西部地震（1502年）による真那板山の崩壊地形．日本地すべり学会誌，49，146-148．矢野孝雄（2018）『塩の道』成立の自然史的背景－姫川峡谷の形成プロセス-．市立大町山岳博物館 研究紀要，3，47-60．

（専門員　矢野孝雄）

こども博物館

わたしだけの“ニュー雪形”をさがしてみよう！

雪形ってな～に？

雪形は黒い山肌と白い雪とによって形作られる残雪模様です。古い言い伝えのある雪形には、馬など動物やお爺さんなど人物のほか、農作業の道具など、昔の生活に結びついたものが多いのが特徴です。昔の人たちの豊かな想像力に驚かされるとともに、こうした雪形から、当時の暮らしの様子が思い浮かびます。

春、白馬村から安曇野周辺では北アルプスに現れるさまざまな雪形を見ることができます。晴れた日には、ぜひご家族で雪形ウォッチングに出かけて楽しんでみてはいかがでしょうか。

白馬岳の代かき馬

（5月中旬頃　白馬村）

鹿島槍ヶ岳の鶴（左）と獅子（右）

（4月中旬～5月初旬頃　大町市）

爺ヶ岳の北の種まき爺さん

（5月初旬頃　大町市）

爺ヶ岳の南の種まき爺さん

（3月下旬～5月初旬頃　大町市）

さあ レッツ トライ!!

大町市内では、右上の写真のような鹿島槍ヶ岳の「鶴」と「獅子」や、爺ヶ岳の「種まき爺さん」の雪形を見ることができます。こうした古い言い伝えのある伝統的な雪形以外にも、自由な発想で自分だけの“ニュー雪形”をさがして遊んでみましょう。

お家や学校の近くなどの安全な場所から、西にそびえる爺ヶ岳をよ～く見て、ふたりの種まき爺さん（黒色のシルエット部分）のほかに、どんな形の残雪模様が見えるか、さがしてみよう！

新しい雪形がみつかるかな？　雪形がみつかったら、下の図に、みつけた場所の形をなぞって書き入れて、なまえをつけてね。おもしろい雪形をみつけたら、山岳博物館まで教えてくださいね！

爺ヶ岳

ニュー雪形のなまえ

みつけた日　　年　　月　　日　　みつけた人

博物館のひろば

安曇野アートライン展に出展

11月23日（金）～12月24日（月）

第14回安曇野アートライン展が国営アルプスあづみの公園（堀金・穂高地区）で開催されました。

開催期間は、イルミネーション「光の森のページェント」とも重なる1か月間、当館からは大町市出身の尾竹正躬氏の作品5点を出展しました。

イルミネーション会場で冷えた体には、美術品の温かみとアートライン展会場の暖かさが嬉しいミニ美術展だったようです。

博物館常設展スペシャルガイド

12月16日（日）、1月20日（日）

山岳博物館では、11月～ 3月までの「家庭の日」（各月の第３日曜日・市民観覧無料）にあわせて、家族や友人とともに博物館で楽しみながら学んでいただく機会にしていただこうと、博物館職員が各自の専門分野を掘り下げて解説を行ないました。合計5日間開催し、各回とも10人程度の方が熱心にメモを取って、日頃の疑問なども含め沢山の質問をいただきました。

ライチョウ保全のための会議

１月10（木）・21（月）・22日（火）

１月10日に開催された環境省のライチョウ保護増殖検討会に出席しました。この会議は保全について平成30年の成果と平成31年の方針を議論する場で、南アルプスで確認されたメスの巣に乗鞍岳から卵を移送して繁殖させる計画、動物園等での公開、飼育技術の向上の計画等が承認されました。

１月21・22日には保護増殖検討会の方針に基づき、生息域外の具体的事業について話し合い、国内５園館で取り組む公開と繁殖についてすり合わせをしました。

大町市老人クラブ連合会で講演

1月17日（木）

出張講座の一つとして講師を派遣し、当地域の話題的なテーマとして「ライチョウを守る－ここまでわかったライチョウの生活」と題して講演をしました。

中央アルプスへのライチョウ移植や、飼育ライチョウの公開などをご存知の方も多く大町という土地柄、関心のある方が多いと感じました。

講演後には、ライチョウのことを知っているつもりだったが、新しいことがわかったなどの感想がありました。

県下市議会議長会視察研修会

1月23日（水）

長野県市議会議長会総会が大町市で開催され、県下50名程の正副議長さんが来館されました。

当日は館内、付属園を学芸員が説明しながら視察研修していただきました。時間が限られている中、皆さん熱心に説明を聞き展示をご覧になっていました。

議長会総会の記念土産にはミュージアムショップで扱っている百瀬慎太郎の歌入りの手ぬぐいが選ばれ、皆さん大変喜ばれているようでした。

美術館・博物館の展示照明研修会

2月14日（木）

安曇野アートライン推進協議会の職員研修会が開催されました。

新薬師寺や奈良国立博物館などの多くの寺社仏閣、美術館・博物館の照明を手掛けている美術照明家の方を講師に向かえ、LED 照明の発光方式や波長で展示物の見え方が大きく変わることなどの特性を学びました。

早晩、蛍光灯の生産中止が見込まれる中、資料の劣化を防ぐ紫外線吸収型の LED 照明化への取組みは避けられない課題です。

山博（さんぱく）友の会だより

いっしょに山の探検してみませんか　山岳博物館友の会

山岳博物館には、山好きな人達や自然が好きな人達が、山の文化や自然に触れ、その奥深さや不思議さを学びながら、博物館をみんなで盛り上げていこうという「山岳博物館友の会」という会があります。昭和26年、日本で最初の山岳博物館が大町の地に産声をあげたその2年後には、「博物館研究会」という現在の友の会の前身となるものが作られ、昭和53年に山岳博物館友の会として名称を変えて発展的に生まれ変わり、それ以来活発な活動を積み重ね、昨年の平成30年には友の会創立40周年を迎え、博物館とともに車の両輪となって歴史を歩み、伝統を築きあげてきました。

その活動は多岐にわたり、子どもたちが親子一緒になって野山に出て、自然の中から学び、科学的知識を高めようと、学校の授業では経験することのできないことを計画してきました。下の写真は、平成30年度に行った活動の一場面です。会員の皆さんはとにかく山や自然が好きな仲間です。たくさんの方と一緒に活動することによって、知識を得ながら、心も満たされ、気分をリフレッシュする機会ともなり、活動を通してふるさと大町を深く見つめ直し、ふるさとのために何ができるかを考える機会となることでしょう。山岳博物館友の会では、より多くの人たちとこうした思いを叶えるために「友の会」会員の募集をしています。自分の趣味や研究を通じて心の豊かさ、心の健康を得るために、友の会に入っていっしょに山や湖、そして川へと探検にでかけましょう。

山岳博物館友の会の活動アルバム

～平成30年度の行事から～

左側上から、山小屋での「山の成り立ち」講座風景。同爺ヶ岳登山。野鳥の声を聞く会の活動風景。

右側上から、富山市科学博物館友の会との合同のトンボ採集、中・下の写真は、塩の道を歩くイベント風景。

大町山岳博物館友の会 会員募集中!

友の会に入会するとこんなことが！

❶ 博物館へ何度ご観覧されても無料になります。（大人400円、高校生300円、小・中学生200円）企画展、特別展も無料でご覧いただけます。

❷ 友の会主催事業あるいは友の会と博物館との共催するイベントなどに、少ない負担額で参加することができます。（友の会からの参加費補助があります。ファミリーで入会されればさらにお得です。）

❸ 友の会会報「ゆきつばき通信」（年４回発行）が届きます。イベント情報のお知らせや旬の話題、サークル活動報告などが紹介されています。

❹ 博物館広報誌「山と博物館」（年４回発行）が届きます。博物館の企画展やイベント情報、博物館からの旬の話題や出来事、さらに研究最前線の情報などが紹介されています。

❺ 博物館発行の「展示案内書」や「企画展解説書」、「研究紀要」などが届きます。お住まいが博物館から遠くても、博物館の活動や研究の動向を知っていただくことができます。

❻ ご自分のやってみたいことや、希望を提案することもできます。

❼ 友の会サークル活動に参加することができます。

（1）**烏帽子の会**

長野県内の山を中心に、里山から標高の高い山まで、年間６回程度の山行を行います。ひとりで山に行くのは心配という方にピッタリです。山の登り方の初歩からお教えします。ご自身のレベルに合わせてご参加ください。

（2）**花めぐり紀行**

植物が好き、植物をあらためて勉強してみたいという方にお勧め。花の美しさや不思議を求めて、季節ごとに各地を訪ね勉強会を行っています。また博物館周辺の身近な植物についても目を向け、自然について考えることを目的に活動しています。

（3）**山岳文化研究会**

里山や岳など、山と人とがどのような関わりをもって文化を育んできたのか。登山文化や山の信仰など様々な山岳文化をテーマに、ときに現地見学会などを行っています。

（4）**ボランティアサークル**

博物館においでになるお客様への展示説明や博物館周辺の植物の植え替えや潅水、除草など博物館のサポート活動を行いながら学習や体験を深めています。学芸員や専門員と一緒に活動することで、知識や経験に触れつつ、展示解説などを通じて大町の素晴らしさを市内外の人たちに伝えていただけたらと思います。

なお、サークルのご入会方法などの詳細は、友の会事務局までお問合せください。

❽ 入会方法　博物館へお問合せいただくか、博物館Webサイトにあります「友の会入会届用紙」に必要事項をご記入し、博物館事務室までご提出ください。（「入会届用紙」の送付を希望される方は、博物館までご連絡ください。）

平成 30 年度　創立 40 周年記念パーティー

博物館友の会　年会費

ファミリー会員 4,000 円　　個人会員 3,500 円　　学生会員 2,000 円　　賛助会員

※ファミリー会員とは、同居または扶養家族をさします。
※学生会員とは、小学生～大学生までをさします。
※会計年度は４月１日～３月 31 日となっています。途中入会もできます。
※賛助会員につきましてはお問合せください。

お問合せ先　大町山岳博物館友の会事務局　〒398 - 0002　長野県大町市大町 8056－1
市立大町山岳博物館内　TEL/FAX0261-23-6334

2019年度　博物館年間スケジュール

●年間スケジュールは変更となることがあります。今後発行される「山と博物館」「広報おおまち」「山岳博物館ホームページ」などをご覧ください。

2階ホール　さんぱく研究最前線 ― 北アルプスの自然と人 ―

3か月ごとに学芸員等による調査研究の成果「山の科学・研究トピックス」が展示されます。地元に根差した調査研究の成果が主体ですので、新たな地域発見につながるのではないでしょうか。

月（家庭の日）	常設展・企画展・関連イベント	講座・観察会・展示会など
4月（20・21） 5月（18・19） 6月（15・16）	**常設展「北アルプスの自然と人」** ※通年 1Ｆ常設展示	**■講演会「チベット未踏峰登頂と高所順応」** チベットの未踏峰「シュエラプカンリ」に登頂した県山協隊隊員のお話と低酸素発生装置での高所疑似体験。 4月21日（日）　15時～ ※参加無料、定員50名（疑似体験は20名程度） ※山岳博物館に事前申込み **■付属園まつり** 4月27日（土）～5月6日（月・祝日） ◆スタンプラリー　（毎日9時～16時） ◆ライチョウガイド　（毎日11時～15時・友の会共催） ◆ミュージアムトーク（5月1日10時～、14時～） ◆動物観察ツアー　（5月5日10時～、14時～） 動物飼育や傷病鳥獣の救護など付属園の役割を身近に感じ、野生動物や自然環境への関心を高めていただく機会とします。　※参加無料　申込み不要
7月（20・21） 8月（17・18） 9月（14・15）	**企画展「北アルプスの山小屋」** 7月6日（土）～9月29日（日） **■ミュージアムトーク** 7月6日（土）10時～14時～ **■特別講演会「建築からみた北アルプスの山小屋」** 7月28日（日） 時間：13:30～15:30 講師：信州大学工学部准教授　梅干野成央氏 会場：山岳博物館　講堂 募集：60名・先着順 ※参加費や応募方法等の問合せは当館へ **■ミュージアムトーク** 8月18日（日）10時～14時～ **■エクスカーション「上高地徳本峠小屋ほか現地見学会」** 8月31日（土）～9月1日（日） 宿泊：徳本峠小屋 講師：信州大学工学部准教授　梅干野成央氏 行程：島々谷から上高地へ徒歩 募集：２０名・先着順 ※参加費や応募方法等の問合せは当館へ **■ミュージアムトーク** 9月15日（日）　10時～14時～	**■さんぱくこども夏期だいがく** **親子化石教室「信州に海があった頃」** 8月4日（日）　時間：10:00～正午 会場：小川村立屋 対象：小学生とその保護者　※参加無料　定員10組 （雨天時は当館で「親子鉱物教室：地球の宝石箱づくり」） **■自然ふれあい講座** **みんなで温暖化ウォッチ　セミの抜け殻を探せ！** 8月7日（水）時間：未定 長野県環境保全研究所・山岳博物館共催事業 毎年行われ、ぬけがらの変化から地球温暖化の進み方を調べ、来年へもつなげて行きます。 会場：山岳博物館、大町公園周辺 対象：小学生とその保護者　※参加無料
10月（19・20） 11月（16・17） 12月（14・15） 1月（18・19） 2月（15・16） 3月（14・15）	**特別展示室「山と美術」** ただし、企画展開催期間中はご覧いただくことが出来ません。	**おおまち博物館めぐりスタンプラリー** 期間：4月1日（月）～11月30日（土） 大町市内10か所の博物館ではスタンプラリーを実施します。それぞれの博物館の特色ある常設展示、企画展など期間限定の展示をお楽しみいただき、見学された3館目と5館目でオリジナル缶バッチをプレゼントいたします。 **スタンプラリー参加館** 大町エネルギー博物館・塩の道ちょうじや・大町ダム情報館・国営アルプスあづみの公園・西丸震哉記念館・アルプス温泉博物館・アルプス搗精工場・旧中村家住宅・劇団四季記念館・大町山岳博物館 ※施設により休館日等が異なります。 ※参加館情報はパンフレット「おおまち博物館めぐり案内図（割引券等付き）」で、スタンプ台紙、パンフレットとも参加館、観光協会などで入手できます。 **実施主体：大町博物館連絡会（事務局・大町山岳博物館）**

編集・発行
市立大町山岳博物館 OMACHI ALPINE MUSEUM ―創立1951年―
〒398-0002　長野県大町市大町 8056-1
市立大町山岳博物館　編集責任者　鳥羽章人
TEL. 0261-22-0211　FAX. 0261-21-2133
✉ E-mail:sanpaku@city.omachi.nagano.jp
URL:http://www.omachi-sanpaku.com

2019 春号
第64巻1号

発行日　2019（平成31）年3月26日
印　刷　有限会社北辰印刷
〒398-0002 長野県大町市大町 3871-1
TEL.0261-22-3030　FAX.0261-23-2010